

南丹市子育て発達支援センター運営委員会議事録

平成30年度第2回

(平成31年2月18日)

平成30年度第2回南丹市子育て発達支援センター運営委員会議事録

1. 日 時 平成 31年 2月18日 (月)
開 会 午前10時 00分 閉 会 午前11時 15分
2. 場 所 南丹市役所 4号庁舎 2階会議室
3. 協議事項 別紙次第のとおり
4. 出席委員 村上委員長
平家委員 寺田委員 安木委員 渡邊委員 (代理 中澤氏)
坂瀬委員 寺尾委員 寺田委員 松本委員 西田委員
蔭山委員 塩貝委員 濱田委員
5. 事務局 福祉事務所長 榎本
社会福祉課課長 矢田
発達支援係長 山崎
つくし園施設長 長田
6. 傍聴人 0名

1. 報告 事務局

新しい委員をご紹介させていただきます。平家委員と渡邊委員です。本日は、渡邊委員の代理で中澤氏に出席いただいております。平家委員、渡邊委員どうかよろしくお願い致します。

2. 開会あいさつ 村上委員長

お忙しい中、本運営委員会にご出席いただきありがとうございます。本日も大切な議事を通じて、貴重なご意見を承りたいと思います。皆様どうぞご協力をお願い致します。

以下、村上委員長が議長となり進行。

3. 平成30年度発達支援相談事業経過報告

事務局より資料1, 2を基に報告。

4. 平成30年度児童発達支援事業経過報告

事務局より資料3, 4, 5, 6, 7を基に報告。

5. 事業経過報告について質疑応答

A委員：資料2の表2の年齢別相談実人数の5才児54人は全体の何%か？

事務局：資料を持ち合わせていないので、詳細の数字はすぐには返答できない。

B委員：年間出生数が約220人であるので約20%程と考えられる。

A委員：現在では、発達障がい的人数は100人に1人の割合と言われている。
健診での経過観察割合は平均10%程度と言われているが、南丹市は約20%であるので多いのではないか？

B委員：乳幼児健診から相談事業につながる場合、子どもの発達支援はもちろんだが、子育てに悩む保護者を支援する側面も含めて紹介している面もある。そのため、フォロー数が多くなっている可能性がある。

A委員：支援を頑張っていていこうと思う市町村ほどフォロー率が上がる傾向がある。
保護者にとって、何度も相談を案内されるということにもなりかねない。

事務局：5歳児については、就学までに言葉の発達確認を行い、就学後通級指導教室を利用するかどうかの見極めのため、言葉の相談を利用するケースが増える傾向にあるが、1回のみ相談である。その他、就学を見据えて保護者や保育所から相談につながることもあり、5歳児の相談利用数が多くなることが考えられる。

C委員：43名の療育を利用している児童のうち医療受診している児の割合はどれくらいか。放課後等デイサービスは療育とは違い、医療受診をして医師から放課後等デイサービスの必要性を言われている人が利用している。最近、就学まで医療受診をしていなかった数人の児童が、放課後等デイサービスの利用希望があった。放課後等デイサービスを利用するなら、障がいの有無を年中～年長児時には医療を受診して、子どもの発達状況を受け入れていく期間が必要であると思われる。

放課後等デイサービスでは、小学校1年生でも授業が6時間目まである日がある。園部地域なら4時過ぎ、日吉地域なら4時20分頃に放課後等デイサ

ービスに到着し、5時には出発しなければならない。子どもにとって行き帰りに多くの時間を要することになる。小学校入学前には、保護者は放課後の過ごし方について、子どもと向き合う意識をもってほしいと思う。

事務局：療育利用児の多くが医療受診をしている。幼少期から医療受診をしている傾向がある。

保護者の意識として、輸送事業利用に関しては、保育所へ往復輸送事業利用するのではなく、片道は保護者が送迎するなど、保護者が自分で送迎するという意識は高くなってきている。

D委員：療育での5者面談はいつ頃に行われているか？

事務局：10月までに実施するようにしている。

D委員：今年度、家族の会で保護者に就学に向けての話をした。12月ぎりぎりまで支援学級にいくか悩んでいる保護者も見受けられたので、5者面談の時期が早い方が、保護者が考える時間があって良いと思う。

事務局：保護者が考える時間は大切と考えているので、早めの実施を保護者に提案しているが、保護者の受け止めの段階もあり、また状況によっては面談を2回することもあり、時期が遅れていくことがある。来年度も早めの実施を心掛けていく。

6.平成31年度事業方針について報告

事務局より資料8、9を基に報告。

7.質疑応答

B委員：支援ファイルと移行支援シートの学校での活用状況を教えていただきたい。

E委員：11月に就学前健診、2月に学校の半日体験がある際に、就学前の児童の様子を確認している。保育所・幼稚園・小学校連携もあり、支援ファイルと移行支援シートも合わせて状況を把握している。保護者との連携を大切にしながら、支援ファイルと移行支援シートも一つの連携ツールとして活用している。

A委員：資料7の家族の会については、自主組織活動であるので、この会議での報告は、要らないのではないか。

事務局：次回の資料から、ご意見を反映させていただきます。

議長：他の委員の皆様ご意見ありませんか。

⇒質疑なし

議長：平成31年度事業方針について、承諾いただける方は挙手願います。

⇒全員挙手

議長：承認されました。

それでは、議事をこれで終わります。

議長退壇

8.閉会のあいさつ 村上委員長

副会長がご欠席ですので、閉会のご挨拶をさせていただきます。
それぞれの貴重な意見が、センターにとって潤いの力になると信じております。本日はご出席いただき、ありがとうございました。